令和元年度厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
HPVワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究
分担研究報告書

子宮頸がんワクチン接種後に神経症状を呈した患者の当院における診療状況

研究分担者　桑原　聡　　千葉大学医学部脳神経内科教授
研究分担者　関口　縁　　千葉大学医学部脳神経内科助教／JR東京総合病院
荒木　信之　千葉大学医学部脳神経内科助教

研究要旨
子宮頸がんワクチン接種後に脳神経障害を呈し当院を受診した患者について、臨床評価および治療の現状を検討した。当院への新規患者受診は2018年以降0名であり、子宮頸がんワクチン接種後に神経障害を呈する新規患者は減少傾向にあると考えられた。一方で当院での長期観察例においては、免疫学的治療に一部反応はみられるが、大半は疼痛・易疲労性が継続しており社会復帰が困難であった。

A. 研究目的
当院における子宮頸がんワクチン接種後に脳・神経障害を呈した患者の臨床評価および治療の現状ついて検討する。

B. 研究方法
2015 年 4 月から 2019 年 12 月までに当科を受診し、ワクチン接種後に生じた神経障害が疑われた患者 23 例について、背景や臨床経過を検討した。またそのうち通院を継続しており、かつ 2 年以上当科で経過を追った長期観察例 8 例に関して、臨床データ・治療経過を後方視的に検討した。

（倫理面への配慮）
個人情報に関する厳重な配慮を行った。人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、倫理委員会による審査を経て、当該研究についてホームページ上で公開し、研究を行った。

C. 研究結果
新規受診者は2016年度が4名、2017年度が3名であったが、2018年度と本年度は0名であった。
受診者全例でみると、発症時年齢は中央値 16 歳（範囲 13-19）、初回ワクチン接種から発症まで中央値 29 ヶ月（範囲 0-67 ヶ月）、当科初診時年齢は 17 歳（範囲 15-21 歳）であった。
長期観察例 8 例では、発症時年齢は中央値 14（13-19）歳、ワクチン接種から症状出現まで中央値 6（0-43）ヶ月であった。当科初診時の年齢は中央値 18（15-20）歳、症状出現から当科初診までの期間は中央値 44（4-68）か月であった。免疫治療の内容は、血液浄化療法 6 例、ステロイドパルス 3 例、ステロイド内服 6 例、免疫抑制剤 2 例であった（重複あり）。現在も免疫加療を継続しているのは 2 例のみであった。発症時就労・就学状況は、初診時が平常・軽度障害 1 例、50%以上休学・休職している中等・重度障害が 7 例であったが、現在は平常・軽度障害が 2 例、中等度・重度障害が 6 例であった。8 名中 2 名が大学・専門学校に通学しているが、残りの 6 名は疼痛・易疲労性のために就労就学に至っていなかった。

D. 考察
当院における子宮頸がんワクチン接種後に脳・神経障害を呈した患者の一部は、症状が重症化・長期化している。免疫学的治療に一部反応はみられるが、疼痛・易疲労性が継続しており社会復帰が困難であった。

E. 結論

子宮頸がんワクチン接種後に神経障害を呈する新規患者は減少していると考えられる。一方で患者の一部は現在も疼痛・易疲労性が継続しており、社会復帰が困難であった。難治化・長期化する一群のリスク因子を検討する必要がある。

F. 研究発表

特記すべきことなし

G. 知的財産権の出願・登録状況

特記すべきことなし